

教材活用シリーズ 第140回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

子どもたちが夢中になる

『Go!Go! 英語ドリル』

(株)光文書院
『Go!Go! 英語ドリル』



(株)光文書院
英語編集チーム

1 「わかった!」を実感できるドリル

2020年度から、小学校で英語が教科化され、新学習指導要領で、子どもたちが身につけなければいけない英語力の目標が設定されました。

その手助けとなる教材として、私たちは、『Go!Go! 英語ドリル』を開発しました。

英語学習の出発点となる小学校の英語教育が、子どもたちにとって楽しいものであり、「わかった!」「できた!」と実感でき

ることは、その先の学習意欲につながると考えます。

2 『Go!Go! 英語ドリル』の特長

① 教科書に合わせたドリル

教科書の単元に合わせて、単元毎に見開きで構成しています。左ページは単語や文を読む問題、右ページは単語や文を書く問題です。単元で学習した内容の復習ができ、授業の進捗に合わせてご利用いただけます。

② 言語習得の流れに合わせた学習

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を言語習得の流れに合わせて学習できます。そのため、4技能を効率よく習得することができます。

- ・ 紙面の文字を指で追いつながら音声聞く。
- ← 聞いた音声声を声に出して言う（話す）。
- ← 紙面の単語や文を読む。
- ← 学習したことを書く。



▲6年の紙面例

③ スモールステップでの学習

問題が大設問毎にブロック分けされていますので、先生が指導する際に子どもたちへの指示がしやすくなっています。また、1ページのなかで、易から難への問題構成となっていますので、英語が得意ではない子どもでもスモールステップで学習することができます。

3 二次元コードの効用

① 授業の準備時間の短縮に！

紙面の二次元コードを読み込み、本文の英単語や英文の音声を確認することができます。いつでも簡単に、子どもたちにネイティブスピーカーの音声を聞かせることができます。

わざわざ音声を用意する必要がないので、その準備の時間を教材研究などに使うことができます。

② 自宅学習の支援に！

二次元コードで音声を繰り返し再生できるので、子どもたちは自分のペースで英語の音に慣れることができます。言語習得はまず「聞く」ことから始まります。発音の仕方が異なる英語を習得するには、まず音に慣れる必要があります。この二次元コードを活用することで、日本語と英語の音の違いを学び、音・文字・意味を少しずつ、段階的に一致させることができます。

4 英語授業をサポートする3つの教師用付録

① 「デジタル英G.O.」

400語の英単語を収録した、デジタルフラッシュカードです。子どもたちの習得状況に応じて、文字だけの表示やイラストだけの表示など、表示方法を選択することができます。また、取り上げたい単語を選び、授業の導入や授業中にお使いいただくことで、子どもたちの語彙力の確認に役立ちます。



◀表示設定の画面



▶イラストと文字を表示した画面

② 授業で使える英語表現集

授業中の子どもたちへの声掛けなどに役立つ便利な例文を収録しています。授業中にお手元に置いておくだけで、表現を調べる手間を省くことができます。英語を話す先生の姿を子どもたちに見せることは、子どもたちにとってのよいお手本となります。



▲英語表現集

③ 音声CD

各紙面に入っている二次元コードと同じネイティブスピーカーの音声を収録しています。一斉授業でお使いいただけます。

5 今後の展望

私たちは、英語教育に対する熱い思いをもって、「楽しく学べる」教材づくり日々取り組んでいます。先生からのご意見もいただながら、子どもたちが英語を学び続けたいと思える教材をこれからも追究して参ります。